

「子供と父親に関する国際比較調査」

～調査結果について～

総務庁青少年対策本部
専門職員 大竹 健治

I 調査の目的

近年、家庭の問題として父親の不在等が指摘されつつも、これまで本格的な調査の対象になることの少なかった「父親と子供」の関係に焦点をあて、アメリカ、西ドイツとの比較を通して我が国の父親と子供の関係を浮き彫りにすることを目的として実施した。

II 調査の概要

- (1) 調査時期 昭和61年10月28日～12月22日
- (2) 調査対象国 日本、アメリカ、西ドイツ
- (3) 完了数 10歳～15歳までの子供とその父親（各国ともそれぞれ約1,000サンプル）
- (4) 調査方法 個別面接調査法
- (5) 調査実施機関 日本 (社)新情報センター
アメリカ Kane, Parsons & Associates, Inc.
西ドイツ Marplan Forschungsgesellschaft MBH

III 調査結果の概要

1 父親と子供の行動面でのかかわり

- (1) まず、父親と子供の接触時間をみると、父親が休みの日の場合は、日本では、父親と一緒に

過ごすのが1時間くらいという子供が多く、その割合は22.5%となっており、アメリカ、西ドイツも同様で、あまり差はない。

しかし、一緒に過ごすことがほとんどないという子供は、日本で16.1%であるのに対し、アメリカ、西ドイツでは1割に満たない。

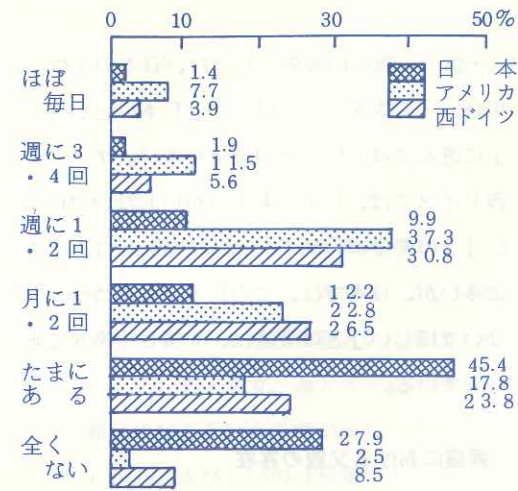
一日当たりの平均接触時間を計算してみると、日本は1時間32分、アメリカが1時間53分、西ドイツでは1時間47分となる。

父親が仕事がある日の場合は、日本では、一緒に過ごすことがほとんどないという子供が37.4%と多い。アメリカ、西ドイツでは、15分くらいから1時間くらいまでをあげるのがそれぞれ多く、ほとんどないという子供は、アメリカで14.7%、西ドイツでは19.5%と、日本の半数程度である。

また、一日当たりの平均接触時間を計算してみると、日本は36分、アメリカが56分、西ドイツでは44分となる。

- (2) 日本の父親で、子供とほぼ毎日おしゃべりしている者や朝食や夕食を一緒にとっている者は約半数であるが、一緒にスポーツをしたり散歩したりすることが全くないという者が27.9%（アメリカ：2.5%、西ドイツ：8.5%）、子供の勉強をみてあげることが全くないという者は40.7%いる（アメリカ：10.8%、西ドイツ：15.8%）。〔図1〕

図1 一緒にスポーツをしたり、散歩したりする



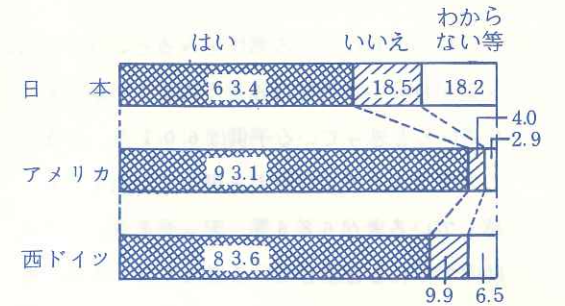
- (3) 父親の子供との接し方に関してみると、日本の父親は、子供が良いことをしたときほめたり、子供との約束を守ろうとしている者はともに9割近くいる。しかし、子供と意見が違ったとき子供の意見をよく聞く57.9%。子供が悲しそうな時などになぐさめたりする63.4%。また、子供をできるだけ大人あつかいしようとしている者は43.2%で、これらの項目は、いずれもその割合がアメリカ、西ドイツに比べ低い。

〔図2〕

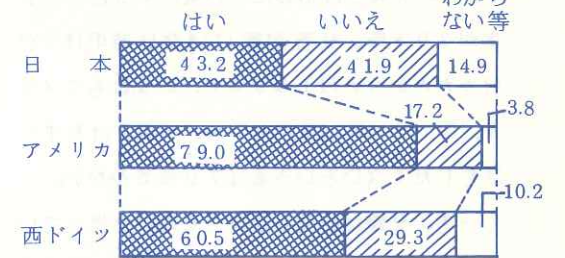
図2 子どもと意見がくいちがったとき子供の意見を聞くか



子供が悲しそうな時などになぐさめるか



子供を大人あつかいしようとしているか



- (4) 日本の父親で、子供の相手を積極的に行っている父親は47.0%で、もっと子供の相手をしあげたいと思っている父親が73.2%いる。アメリカ、西ドイツでも、もっと子供の相手をしあげたいと思っている父親は70%台である。

- (5) また、積極的に子供の相手をしている理由として、日本では「子供にいろいろなことを教えたいから」、アメリカでは「仕事よりも子供の養育のほうが大切だと思うから」、西ドイツでは「子供のことを妻まかせにはいけないと思うから」がそれぞれ第1位にあげられており、あまり積極的には子供の相手をしない理由としては、3か国とも「仕事で忙しいから」が第1位となっている。

2 父親と子供の心理面でのかかわり

- (1) 日本の子供で、父親のことが〈好き〉という

者は92.4%で、アメリカ、西ドイツとは差がない。

(2) 子供の父親に対する感情をみると、日本では、父親が自分のことをほんとうによくわかってきていると思っている子供は60.1%、自分のことをほんとうに好きだと思っていてくれると感じている者が68.6%、困ったときいつでも助けてくれると感じている者は62.7%で、その割合はいずれもアメリカ、西ドイツに比べ低い。

また、父親とは話しにくい気がするという子供が20.8%、父親が家にいない時のほうが好きだという者は15.9%で、いずれもアメリカ、西ドイツとは差がないが、父親とはあまり話をしたくないという者は7.0%で少ない。

一方、父親に心配をかけたくないと思っている子供が91.0%、大きくなったら父親を大切にしたいという者は87.8%で、いずれもアメリカや西ドイツよりも多い。

(3) 父親の子供に対する感情をみると、日本では、子供のことを頼もしいと思う父親は50.2%で、アメリカ、西ドイツより少なく、また、子供の考えていることがわからないという者が29.9%、子供は父親の苦勞がわかっていないと思う者が44.9%と、いずれもアメリカ、西ドイツより多い。

しかし、子供との関係がよそよそしく感じるという父親は7.7%と少なく、アメリカ、西ドイツとは差がない。

(4) 父親が子供に期待する人間像のベストスリーは、日本の場合、第1位が「思いやりのある子」、第2位が「責任感の強い子」、第3位が「ねばり強くがんばる子」で、アメリカでも順位は異なるが、上位3位には全く同じ項目があげられている。西ドイツでは、「思いやりのある子」

に代わって、「きまりを守れる子」がはいっている。

(5) 子供の父親への要望としては、日本の子供の場合、「約束を守ってほしい」「もっといっしょに遊んでほしい」との要望が多い。アメリカ、西ドイツでは、「子どもあつかいしないほしい」との要望が「約束を守ってほしい」とともに多いが、日本では、この「子どもあつかいしないほしい」との要望は、6項目中第6位となっている。

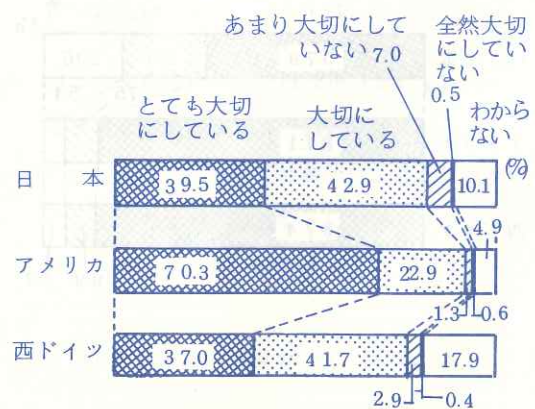
3 家庭における父親の存在

(1) 日本の父親は、家庭の中で権威があると思っている者が77.5%に達しており、家族の中で浮いていると思っている者は9.1%にすぎず、いずれもアメリカ、西ドイツと同じ程度である。

しかし、子供から尊敬されていると思っている父親は65.6%で、アメリカ、西ドイツよりも少ない。

(2) 日本の場合、母親が父親を「大切にしている」と思っている子供は82.4%である（「とても大切にしている」39.5%、「大切にしている」42.9%）。〔図3〕

図3 母親が父親を大切にしているか(子供)



子供が母親との関連で父親をどのように位置づけているか、その存在についてみると、日本では、家族の中心は父親であるという子供が62.4%、父母両方という者が24.3%、母親という者が10.3%で、アメリカ、西ドイツに比べ父親が中心であるという者が多い。

また、頼りになるのは父母両方であるという子供が一番多く、43.2%であるが、父親という者は34.7%あり、母親という者は16.0%にすぎず、アメリカ、西ドイツに比べると父親が頼りになるという子供がかなり多い。

しかし、きびしいのは母親であるという子供が47.1%と多く、父親という者は23.3%であり、アメリカ、西ドイツに比べても、父親がきびしいとする子供は少ない。

なお、尊敬しているのは父母両方であるという子供が最も多く、60.1%であるが、父親と

いう者が18.1%あり、その合計は78.2%となり、前記の子供に尊敬されていると思っている父親の65.6%を上回っている。(表1)

(3) 日本の父親の場合、父親としての自己イメージとしては「仕事熱心」が第1位、「やさしい」が第2位を占め、子供の父親イメージでもやはり「仕事熱心」が第1位、「やさしい」が第2位となっており、日本の父親は、「仕事熱心でやさしいお父さん」というイメージが特徴となっている。

西ドイツでは、父親、子供とも「頼りになる」「子どもずき」「教育熱心」が上位3位を占めている。アメリカは、子供の父親イメージの上位3位は「尊敬できる」「頭がいい」「子どもずき」となっているのに対し、父親の自己イメージは「頼りになる」「思いやりがある」「子どもずき」であり、イメージに違いがみられる。

また、日本の子供は、父親自身が思っている以上に父親のことを「尊敬できる」「頼りになる」「頭がいい」などにより肯定的に評価する傾向があるが、父親は子供が思っている以上に自分のことを「おこりっぽい」「ロウるさい」などにより否定的に評価している。

表1 子供からみた父親と母親の存在(子供)

	日本 (%)				
	父親	父母両方	母親	どちらがもう	わからない
a 家族の中心は...	62.4	24.3	10.3	0.9	2.1
b あなたにきびしいのは...	23.3	21.7	47.1	5.4	2.6
c 頼りになるのは...	34.7	43.2	16.0	2.3	3.8
d あなたのことをわかってくれるのは...	8.2	51.1	29.4	4.1	7.1
e あなたに口うるさいのは...	12.3	17.5	58.6	9.0	2.6
f こわいのは...	44.6	15.4	19.4	16.2	4.4
g 尊敬しているのは...	18.1	60.1	4.1	7.7	9.9

4 家庭外での活動

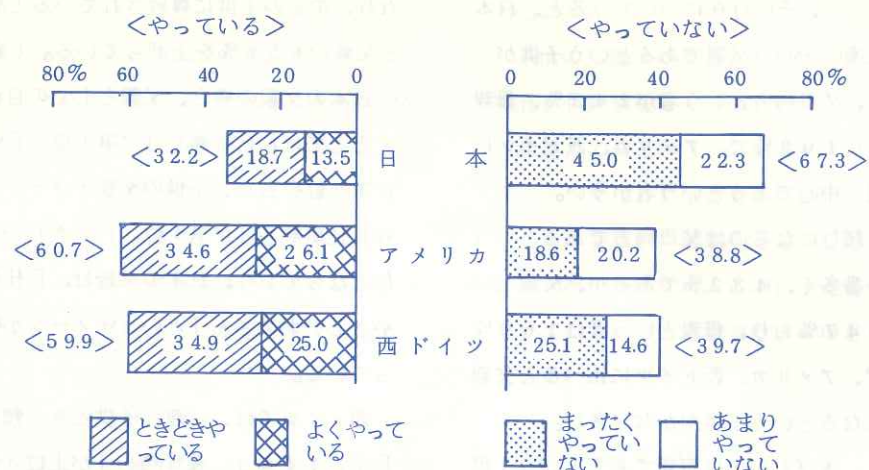
(1) 子供の活動

① 日本の子供は、自由な時間が「ある」とする者が75.9%で、西ドイツに比べると少ないが、アメリカとはあまり差はない。

また、放課後の過ごし方としては、「テレビを見る」「友だちと遊ぶ」という子供が多く、アメリカ、西ドイツとあまり変わらない。

② しかし、学校以外での活動をみると、学校以外での活動を「やっている」という子供は32.2%で、アメリカ、西ドイツに比べ少な

図4 子供の学校以外での活動の程度 (子供)



く、まったくやっていない者が45.0%を占める。〔図4〕

③ 日本の子供の場合、家族や先生以外の大人とおしゃべりしたり、遊んだりする形で接触することが、〈ある〉とする者は45.0%で、アメリカ、西ドイツに比べ少ない。

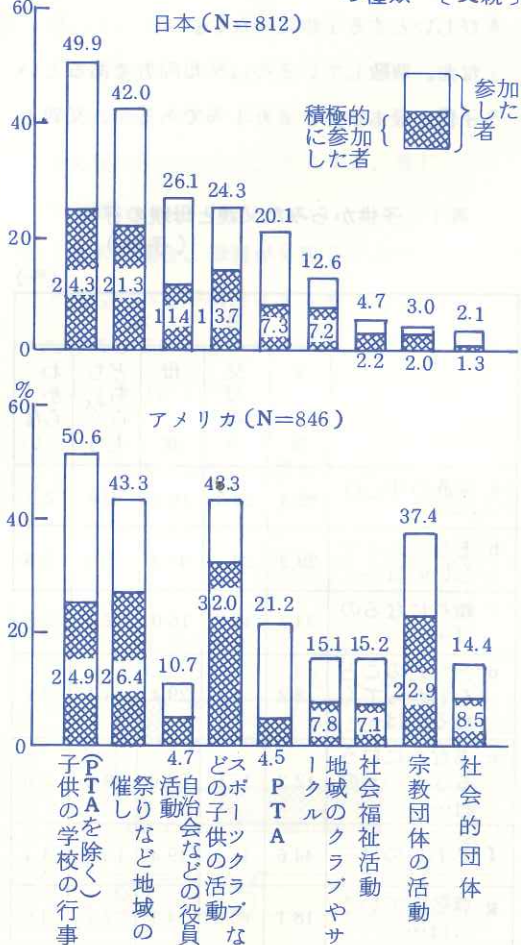
(2) 父親の活動

① 日本の父親で、過去1年間に学校や地域での活動に参加したことがある者は70.7%で、その種類は、PTAを除く「子供の学校の行事」「祭りなどの地域の催し」が主なものである。アメリカの父親は、上記のほか、「スポーツクラブなどの子供の活動」や「宗教団体の活動」に、西ドイツの父親は「地域のクラブやサークル」などにも参加している。

〔図5〕

② 父親の他人の子供とのかかわり方をみると、日本の父親は、あいさつをかわしたり、悪いことをしていればしかることは比較的好くしているが、他人の子供と一緒にしゃべったり、日帰り旅行へ連れて行くなどの行動を

図5 父親が参加した学校・地域での活動の種類〔父親〕



(図5 つづき)

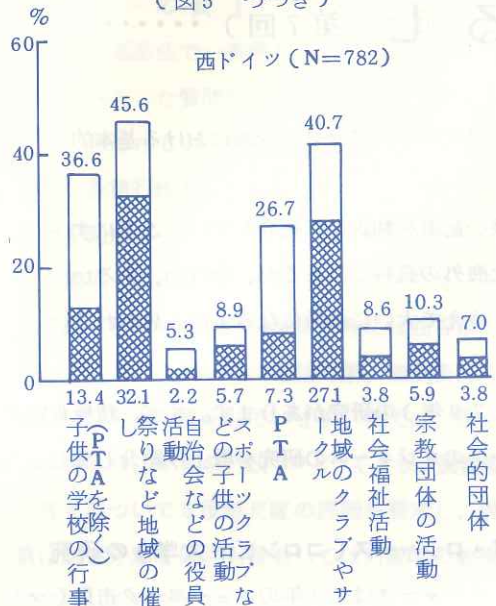
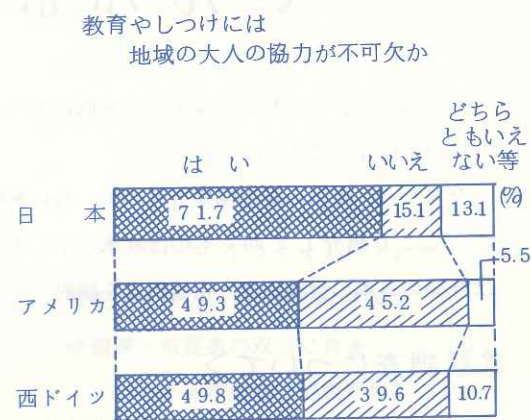


図6 父親の教育観〔父親〕



③ なお、父親の教育観として、日本では「子供の教育やしつけは地域の大人の協力なしには成り立たない」と考える者は71.7%で、アメリカ、西ドイツよりも多い。〔図6〕

共にする形でかかわることは少ない。

最後に、この調査をまとめた『日本の父親と子供』が、政府刊行物として大蔵省印刷局より発行されているので一読いただければ幸いです。

〈なお、この調査の結果に対するお問い合わせ等がありましたら、下記までどうぞ〉

総務庁青少年対策本部調査係
TEL (代表) 03-581-6361 内線 4586
(直通) 03-580-5367

